



NSTについて

内科医長 大窪 勝一郎



ん。子供の成長発達から、運動や仕事上の活動をするため、運動や楽しみのため、なくてはならないものです。今回、チームを頂いたNST（Nutrition Support Teamの頭文字）ですが、栄養サポートをする多職種のチームのことで、栄養療法治の研修を受けた医師、栄養士、看護師、薬剤師、言語聴覚士が中心となって構成されています。特に低栄養状態の入院患者さんについて、病棟に応じて適切な栄養管理がされているかどうかを、主治医、病棟ナースも含め関係各者とともに、チームとして様々な意見を出し合いながら検討し、栄養改善にむけて努力しています。

態があると、免疫状態も低下し、肺炎等の病態が悪化し、改善に時間がかかる。また、瘡ができやすくなったり、手術後の経過に影響を及ぼし、入院期間が長期化することが分かっているからです。

入院時にまず栄養状態を検討。経口摂取できるのかどうか、点滴でいくのか、また、腸をつかえるのかどうか、食欲はあるのか、下痢はしているのかなど。週に1回の栄養カウンタレンスと定期的な病棟カンファレンスで問題点をあげて対処していきます。

経口摂取は点滴の場合とくらべより自然であり、同じ力口リーを投与しても、全身状態の改善がされやすい、食べる楽しみが得られる、退院した後の管理がしやすい等の特徴があります。

ご老人で認知症、脳血管系の病気をされているときは、嚥下能力が低下し食事でむせ肺炎を起こしやすい傾向があります。また、食べる意欲、好き嫌い、入れ歯があわないと、

場合でも、食事摂取量に影響を及ぼしますし、場合によつては、それだけでむせから肺炎を起こす可能性もあります。経口摂取自体をやめてしまうと、食べる機能が低下していきます。そういうった場合、言語聴覚士が、嚥下機能を確認しながら、嚥下訓練食を開始。場合によつては、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科の医師と相談して、嚥下内視鏡や嚥下造影検査を行います。

ーインスープ味、トーフ味などあります。経口ができない場合、できるだけ腸を使いたいため、経管栄養を選択します。経鼻経管栄養が長期にわたる場合は、胃瘻造設も検討します。経管栄養では、身長、体重、年齢、性別、病態を念頭におき、総力口リード、必要蛋白量、脂質など設定し、それに見合った内容の栄養剤を投与します。

投与後、当然栄養状態の観察とともに、下痢はしていかないなどの検討もします。

点滴については、当然主治医が決定するのですが、力口リードのみならず、水分量、電解質、血糖の相談もうけます。退院時には、入院中の栄養管理をもとに栄養指導をすることもあります。担当者会議でケアマネージャーをふくめ、栄養の相談をすることもあります。以上のようにNSTは、入院時から退院に至るまで人の患者さんにチーム一丸となつて関わっていきますので、気軽に相談してください。

救急医療と医療崩壊の現実

特任副院長 濱口 雅人

急病患者の受け入れ先がなく、救急車が何軒もの病院をたらい回しになつたあげく、患者が死亡した。という事件がある度に、救急医療と医療崩壊についてマスコミが新聞紙上をぎわします。この先進国日本で急病になった時に、受け入れ先がない、助からないとはなんとお粗末な状況なのでしょう！日本の救急医療が崩壊してしまつたのは何故でしょうか？

全国の救急救命センターの数

245施設（2011・12現在）

救急専門医の数3374名（2012・1現在）

人口当たりに換算すると、欧米諸国に比べ、かなり低い数値であり、日本は救急医療後進国といわれています。救急医の数が足りず、実際の現場で救急患者を診てているのは、他の専門を持つ内科や外科の医師が時間外に救急医療も行っているのが現実であります。夜間当直後も翌日休み無く働く医師はほとんどはならない。医師はどんどん疲弊していく。更に一昔前までは、夜間、休日に専門を問わず、救急患者さんを診れば、感謝される時代でしたが、現在は、専

では、突然患者さんはやつてきて、みるみる容態が変わることもあり、家族と十分な信頼関係を得る時間もなく、治療に奔走しなければならない。その結果が悪い場合、医療訴訟に発展する例も多いとされています。

過去の救急に関する医療訴訟でも、たしかに医師側に明らかに医療から手を引く病院が相次ぐ事となり、結果救急病院が減少し、更に救急医療崩壊が進むという悪循環となっています。

医療訴訟はなぜ増えているのでしょうか？マスコミの無責任な医療報道もひとつの要因と思

います。冒頭のたらい回しという言葉にしても、病院間を救急車が走り回ったイメージがつきまとった言葉ですが、現実は、救急車は受け入れ先の病院決定のために、打診の電話を何軒かけたかと言うことで、受け入れ不能の理由は、空きベッドがない、専門外の医師が当直、医師が手術中や他の重症患者の対応中であります。しかし救急患者さんが

急病になつても安心できる医療体制は、国を上げて取り組んでいただかないと解決しない問題です。医師の増員、救急医療救命センターの充実など、いつになつたら実現するのでしょうか？

当院も救急科の事実上の撤退

で、まさに医療崩壊のまつただ

中です。しかし救急患者さんが減る訳ではありません。できうる限り、急患を断らずに診ると

いうポリシーのもと全医師で一致団結して救急診療にあたつて

います。医師にとつても患者さ

んにとつても、早くこの現状が

好転する事を切に願う今日この頃です。

第26回 生活習慣病教室

テーマ

乳がんのリスクと予防

日時 7月20日(金) 14時30分から約一時間

講師 総合外科部長 玄 東吉医師

会場 牛久愛和総合病院 B館2階 大ホール

参加費 無料

今回は、乳がんについてのお話です。事前予約は不要です。興味がおありの方は、お誘いあわせの上お気軽にご参加下さい。



◎お問い合わせ先

牛久愛和総合病院 総務課

電話 029-873-3111代

第24回生活習慣病教室 の時間変更により、大変ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

春秋園だより

ています。

事前に打ち合わせをして、

通われている方が知つていい曲を三味線や尺八の伴奏にのせて歌つていただきました。

晴天の日には夏の様な暑さがあり、また突然な大雨や落雷等でなかなか気軽に外に出るわけにはいきませんね。

さて、今回は大雨が降つても安心して楽しく過ごせる通所リハビリテーションを紹介させていただきます。

通所リハビリテーションでは、リハビリや入浴以外の時

間も楽しんで過ごして頂くよう毎月行事を行つています。

5月は春秋園をご利用され

ている方からの紹介で『民謡

心千会』という磯節全国大会

日本一の岸田千恵子さんが代

表を務めるプロの団体に来て

ただきました。

牛久市の様々な行事に参加されていて、以前も入所の夏祭りに来ていたみたい



(通所リハビリスタッフ一同)

ジェネリック医薬品について その1

薬剤センター科長 中野 一男

ジェネリック医薬品と云う

言葉をテレビCMなどで近頃

耳にする機会も多いと思いま

す。いわゆる特許権が切れて

一般名(generic name)で流

通するようになつた医薬品を

指している。開発メーカーの

巨額な開発費が必要無く、一

般的に三割~七割程度薬価が

安価である。

診療費の上で、個人負担も

さることながら、健康保険で

の負担も軽減されることか

ら、国もジェネリック医薬品

の推進を様々な機会を捉えて

る為に、『あなたに会いに来た

のよ』と言つていただけるよ

うに、通うのが楽しみになつて

頂けるよういろいろな行事やイベントを行つています。

よろしかつたら一度ご覧

にいらして雰囲気だけでも感

じてみませんか? いつでもお待ちしております。



入職者

5月1日付

■看護部

看護助手 猪瀬 花緒里

責任を持って業務に取り組み、職員や患者様に信頼される人材となるよう努力していきます。

■画像診断センター

診療放射線技師 仙波 一祐

心と体の頑丈さが私の一番の長所です。力強く、積極的に業務に取り組みたいと思います。

■診療放射線技師 廣瀬 雄人

常に一生懸命なところがとりえなのでこれから積極的に業務に取り組んでいきたいと思います。

5月16日付

■看護部

看護師 安田 果奈

豪州にワーホリで一年滞在し、人生勉強をしてきました。学びを仕事にも活かしていきます。





5月20日(日) 「高崎自然の森」に遠足に行きました。公園内の散策にみんなで出掛けました。水辺には花菖蒲、睡蓮の花が咲いていて池の中を覗いてみると、大きなおたまじやくし、カエル、めだか、ザリガニがいました。子ども達は目を輝かせ身を乗り出して見ていました。

(宮二)

遠足
5/20

出来事ピックアップ

診療報酬改定講習会
5/21



5月21日講師を招いて「平成24年診療報酬改定講習会」を行いました。今回の改定は、病院・病床機能の役割分担を通じてより効果的・効率的な提供体制を構築するのを目的としています。講演内容は、厚生労働省の構想している医療・介護機能の将来像、方向性や新設された診療点数などを重点にわかりやすく講義をしていただきました。

(医事企画部課長 吉川)

編集だより

おたまじやくしから成長したカエル達の合唱が賑やかな季節になってきました。もうすぐ梅雨ですね。雨が続くと憂鬱な気分になりますが紫陽花を見に出掛けなど梅雨ならではの楽しみをみつけてみるのもいいですね。(C・I)

病院理念 我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様に最高の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

病院概要

病床数 504床 (一般 445床 医療療養型 59床)

施設

敷地 57,911 m² 駐車場 1040台



日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 常仁会

牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031
ホームページ <http://www.jojinkai.com>

関連施設

総合健診センター

Tel 029-873-4334

健康増進施設 スポーツリラックス

Tel 029-874-8791

介護老人保健施設 春秋園

Tel 029-870-3100

